

ジュウサンホシテントウ及びチョウゲンボウについて

(2) 注目すべき動物種への影響

対象事業実施区域では注目すべき鳥類としてチョウゲンボウを確認し、昆虫類としてハグロトンボ、ジュウサンホシテントウの2種を確認し、陸産貝類としてナミギセルを確認した。

チョウゲンボウは調査期間中26例確認され、そのうち対象事業実施区域内では3例確認されたが、いずれも上空の飛翔であり、餌取りや営巣は確認されなかった。一方、新幹線及びしなの鉄道の鉄橋上では止まりや探餌を行い、その後千曲川を飛翔していることが確認されている。また、本種は主にネズミ類や昆虫類を主食としているが哺乳類（フィールドサイン法、トラップ法）の調査結果から千曲川沿いでアカネズミの生息が確認されている。

以上ことから、千曲川河川敷を主要な餌場として利用していると考えられることから工事による影響は少ないと考えられる。

ハグロトンボは主に河川敷に生息する種であるが、対象事業実施区域が河川に隣接しているため、千曲川河川敷等からの飛翔による移動と考えられることから、工事による影響はないものと考えられる。

ジュウサンホシテントウは主に河川敷のヨシ等が繁茂する湿原にみられる種である。主な餌は、ヨシやモモ、スモモ等に生息するモモコフキアブラムシといわれている。

対象事業実施区域に隣接している千曲川河川敷では、ヨシが繁茂し、モモの木も広く分布しており、調査範囲内の桃果樹園は約6.2haである。そのうち対象事業実施区域内の桃果樹園は約0.1haであり、その割合は約1.6%と小さいことから工事に伴う生息環境の削減による影響は少ない。

ナミギセルは対象事業実施区域内の敷地境界で夏と秋の調査で合計6個体を確認しているため、土地の改変区域を一部見直すことや生息適地に移殖させる環境保全措置を検討する。

6) 環境保全措置の内容と経緯

本事業の実施においては、できる限り環境への影響を緩和させるものとし、「4-1 大気質」（P4-1-65参照）、「4-2 騒音」（P4-2-22参照）、「4-3 振動」（P4-3-10参照）、「4-6 水質」（P4-6-22参照）及び「4-11 植物」（P4-11-40参照）の工事による影響に示した環境保全措置及び表4-12-32に示す環境保全措置を講じる。

表 4-12-32 環境保全措置(希少種の保全)

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類
注目すべき動物の生息地の保全	造成計画の一部変更等により、注目すべき種が生息している地域について改変部分をできる限り少なくする	回避
注目すべき動物を生息適地へ移殖させる	工事に先立ち注目すべき動物を確認し、生息適地に移殖させる	代償

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

最小化：実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。

修正：影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。